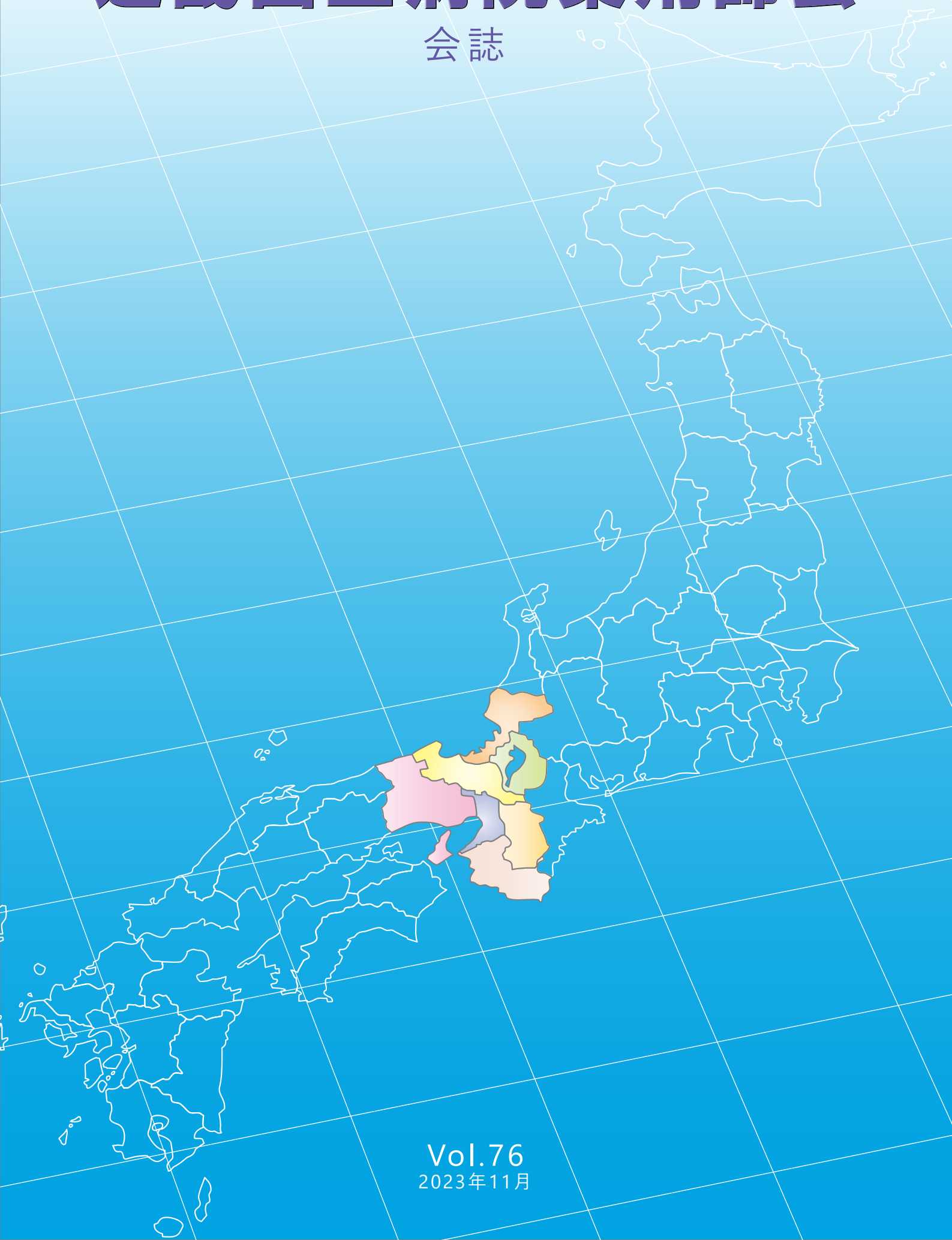


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.76
2023年11月

目 次

提言.....	2
	宇多野病院 山本 靖子
薬剤部紹介.....	3
	奈良医療センター 松井 仁美
メディセオ阪神 ALC 見学会参加報告.....	5
	神戸医療センター 川上 智広 姫路医療センター 壇 梨恵
第 77 回国立病院総合医学会参加報告.....	7
	大阪医療センター 長谷川 英利 奈良医療センター 三嶋 美穂
薬剤師の認定資格について考えてみる.....	10
	国立循環器病研究センター 坂倉 広大
趣味のページ.....	12
	舞鶴医療センター 多田 純平
編集後記.....	13

提 言

宇多野病院 山本 靖子

今年、阪神タイガースが38年ぶりに日本シリーズで優勝しました。前回の優勝は1985年(昭和60年)ですので、永年応援していた多くのファンを喜ばせました。優勝時の世帯視聴率は関西地区で平均38.1%、瞬間最高視聴率は、50.0%でしたので、その瞬間は単なるスポーツの勝利を超えて、阪神タイガースファン共々、長い間の努力と忍耐が報われた時だったのではないかと思います(私は、阪神タイガースファンではありません)。

野球に限ったことではありませんが団体スポーツは、個々のプレイヤーが輝くだけでなく、チーム全体が目標をもち、協力と連携が勝利につながります。そのためにチーム内のコミュニケーション、それぞれの得意分野を活かしたプレー、継続したトレーニングをおこない、試合に負ければ振り返って原因を追究し、学んだことを次の試合に活かしていきます。継続的なチームの努力や組織全体の向上が優勝という実を結んでいきます。これは、薬剤師にも共通するところがあるのではないかと思います。

薬剤師も医療チームの一員として医師、看護師等、他の薬剤師と協力し合い、患者に最適な治療を提供することが求められます。コミュニケーションを通じて情報の共有や意見交換をおこなうことで、チーム全体でより質の高い医療を実現していくことができます。また、常に新しい情報と技術に対応するために学び続ける姿勢を持つことが大切です。

チーム(team)の語源は、もともと家族や子という意味があり、そこから引っ張るもの、互いに結びつけられたものと進化していった言葉ということです。この他に、Together(一緒に)、Everyone(みんな)、Achievement(達成する)、More(より多くのこと)の頭文字を並べたものだという説もあります。これは元プロ野球監督の野村克也氏が選手に対してよく使っていたというエピソードがあります。一つの目標に向かって、それぞれが取り組んでいくことによって、一人でやるよりもさらに大きなことを達成できるということです。

薬剤師間、多職種間、地域連携とチームには様々な形がありますが、皆が一緒に取り組むことによって患者の受ける医療の質が向上していきます。共通の目標のもとで協力し合うことは、個々の成長だけでなく、医療サービスの進化にも繋がり、患者にとってもより良い結果を生むことが期待されます。一緒に、より良い医療環境を築いていきましょう。

*1985年の新語・流行語大賞の受賞一覧が見られるサイトです。時代の変化を感じます。興味のある方はご覧ください。

<https://www.jiyu.co.jp/singo/index.php?eid=00002>

薬剤部紹介



独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
National Hospital Organization Nara Medical Center

【病院概要】

奈良医療センターは、奈良市の西部、西の京に位置し、万葉集に名高い勝間田池に優美な姿を映す世界遺産である薬師寺の双塔や、唐招提寺の森を近くに望み、遠くは東大寺、若草山、生駒山系が一望できる風光明媚な地にあります。平成 16 年に旧国立療養所西奈良病院と国立奈良病院が、西奈良病院の地で統合され奈良医療センターとして発足しました。病床数は 340 床であり、一般病床 177 床、結核 30 床、重心障がい者病棟 100 床、筋ジストロフィー病床 33 床となっております。また、政策医療（結核医療、重症心身障がい者医療、筋ジストロフィー等の神経難病）の要として奈良県の医療に貢献しており、令和 3 年 4 月に奈良県のてんかん診療拠点機関に指定されました。



【病院基本理念】

私たちは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院作りを目指します。

【薬剤部概要】

薬剤部は、薬剤部長、副薬剤部長、主任 1 名（薬務主任）、薬剤師 4 名、助手 1 名の合計 8 名で構成されています。（R5.11.1 時点）

結核病棟と混合病棟（脳神経外科、耳鼻咽喉科、整形外科および呼吸器内科）の 2 病棟に薬剤師が常駐し、持参薬確認は、短期入所を含め、全 7 病棟で実施しています。令和 4 年 4 月より入院支援センターが開設され、全入院予定患者に対し薬剤師も介入し、術前・検査前中止薬の確認を行い、手術、検査の安全な実施に貢献しています。治験業務も担当しており、てんかんと肺 MAC 症を対象とした治験を実施しています。チーム医療では、パーキンソン病、ICT、AST、NST、褥瘡、などのチーム医療に参加し、多職種と積極的に意見交換を行っています。また当院は、肺 MAC 症に適応を有するアミカシン吸入液を外来で導入しており、薬剤師はじめ、医師、看護師、メ

ディカルソーシャルワーカー及び時には、院外薬局、訪問看護師と連携を取りながら実施しています。

令和3年4月に奈良県のてんかん診療拠点機関に指定されたことに伴い、今年度より、てんかん薬剤師外来を開設し、医師より依頼のあった患者さんに対しアドヒアランス向上に向けた服薬指導を実施しています。また、PBPM(プロトコールに基づく薬物治療管理)にも積極的に取り組んでおり、各種疑義照会の代行やドパミンテスト時の処方管理なども行っています。

地域の医師および薬剤師の先生方とともに平城漢方研究会(年4回)を開催しており、近畿国立病院生涯研修センター(KLEC)の研修単位の取得も可能としております。令和5年1月にやまと精神神経センターとともに、飛鳥薬薬連携協議会を発足し、KLEC エージェンシーとなりました。

最近のトピックスは、今年9月に念願の全自動秤量散薬分包機が導入されたことです。当院は重症心身障がい児者、筋ジストロフィーおよび結核患者が多く入院されているため、散薬調剤が多く、ヒューマンエラーを防ぎたい、非薬剤師でもできる調剤業務を増やしたいおもいがあったことから、全自動秤量散薬分包機を導入しました。導入により、散薬調剤の負担が減少し、マンパワーの確保と薬剤師業務の調剤機器や非薬剤師へのタスクシフト推進につながりました。今後も、更にタスクシフトを進めて薬剤師が今以上に臨床現場で力を発揮できるよう努めていきたいと思っております。

【当院のロゴマークについて】



最後に、当院のロゴマークを紹介します。奈良で連想する動物の鹿がデザインとなっており、奈良医療センター(NARA MEDICAL CENTER)の頭文字(NMC)をそれぞれ鹿の角(NとM)、耳に(C)に模したデザインとなっています。

NHOの病院には、奈良医療センターと同じく、いずれも英文化の頭文字がNMCとなる施設が複数あるため、なじみのある鹿を使うことで奈良らしさをアピールしています。



(文責:松井 仁美)

メディセオ阪神 ALC の竣工披露・見学会に参加して

神戸医療センター 川上 智広

2023年9月2日(土)に開催されたメディセオ阪神 ALC の竣工披露・見学会に関してご報告させていただきます。阪神 ALC は災害対策を備えた物流センターとして建設されている。阪神・淡路大震災、東日本大震災などの経験を生かし、建物免震構造を施すほか、緊急配送用バイク、自家給油設備、停電時の自家発電設備等を配備し、地震等の自然災害時にも、物流業務を継続できる体制を整えている。安全面に関して、商品の保管・払い出し・仕分けなどの作業を自動化・機械化した次世代型物流システム『AUPUS』を導入している。正確性に関して、あらゆる工程において、バーコードや電子秤でのチェックシステムを取り入れ、人為的ミスを排除した結果、出荷精度 6 σ を維持している(※6 σ とは、製造業で不良の発生率(100 万分の 3.4)を示す統計用語)。また、環境保全として、太陽光発電による自然エネルギーの活用や雨水を利用した水資源の有効活用、間伐材や再生木材などの再生素材を使用しており、電気自動車の導入等も行っている。

今回の見学を通して、卸の仕事内容に関して深く理解することが出来ました。災害によって医薬品供給が途切れないように様々な対策を講じており、医薬品供給において欠かせない存在だと感じました。また、安全面に関して、長年の研究から機械化が進んでおり、最新の技術を生で見ることができました。調剤においても機械化が進むなか、今後このような技術が応用され、人が調剤する機会が無くなる時代が近づきつつあるのかなと個人的に感じました。最後に、ご多忙の中、今回の阪神 ALC 竣工披露・見学会に向けてご準備いただいた先生方には大変感謝申し上げます。

株式会社メディセオ メディバルグループ

阪神ALC 竣工披露・見学会

9/2(土) 10:00~18:00
最終入場17:00

9/3(日) 9:00~16:00
最終入場15:00

すべては
お得意様のために

阪神ALCは医薬品・医療材料・試薬を
ワンストップサービスで安心・安全にお届けします。

目録整備 | ガソリンスタンド | 緊急用バイク | 自家発電

庫内見学ツアー実施

メディバルグループの災害対策と安心・安全にお届けできる物流システムの
庫内見学ツアーを実施いたしますので、是非ご覧ください。

医療機器展示コーナー 当日は医療機器の展示も実施致します。
庫内見学に合わせて医療機器展示もご見学頂けます。

株式会社メディセオ [住所: 阪神ALC] 〒663-8241 兵庫県西宮市津門大塚町11番15号

メディセオ阪神 ALC 見学会に参加して

姫路医療センター 壇 梨恵

2023年9月2日土曜日に、株式会社メディセオの最新鋭物流センターである阪神 ALC を見学してきました(ALC : Area Logistics Center)。兵庫県西宮市に設置され、私の勤務する姫路医療センターからは車で 80km(車で約 1 時間 30 分)の場所に位置しています。残念ながら姫路医療センターはカバーエリアから外れているのですが、京都府・大阪府の一部・兵庫県の一部をカバーする物流センターです。



建築面積 4,466 坪の地上4階建てのたいへん大きな建物で、残念ながら撮影禁止のため中の様子をお見せすることができないのですが、最新鋭の技術を使いできる限り人の手を介さないシステムが構築されていました。発注受注から発注元へのトラックの場所へ流れるようになっており、可能な限りヒューマンエラーが起こらないようにシステム化されていました。また、人の手を介さなければならない場面でも、プロジェクトマッピング等を用いて視覚や聴覚的に間違いがわかるシステムが導入されており、効率よりも間違いがより少なくなるように設計されていることに感銘を受けました。

また、ただの最新鋭の物流センターとして設置されているだけではなく、地震大国であるという側面から免震構造も必要十分以上になされている他、停電時の自家発電・緊急配送用バイク・自家給油設備の設置および地下に雨水を貯めることができる構造となっており水資源の確保も念頭に設置されていました。医薬品卸業者として自然災害であったとしても業務を止めることなく医薬品を供給することを想定されており、とても安心いたしました。

薬務主任として勤務し、また昨今の医薬品供給情勢から今までは特に意識してこなかった卸業者の重要性をひしひしと感じております。今回、このような卸業者での薬剤の動きを見学する機会を与えていただき感謝いたします。学んだ内容について、今後の日常業務に生かしていきたいと思っております。

第 77 回国立病院総合医学会に参加して

大阪医療センター 長谷川 英利

第 77 回国立病院総合医学会が、2023 年 10 月 20 日～21 日に広島県のリーガロイヤルホテル広島・広島県立総合体育館・メルパーク広島の 3 会場にて開催されました。新型コロナウイルス感染症も落ち着き、4 年ぶりのフルバージョン開催ということで、約 6000 名の職員が積極的に意見交換を行っている姿や全員交流会での立食パーティーなどを見て、ようやくコロナ禍以前の活気が戻ってきたなと感じることができました。

第77回国立病院総合医学会



私は、“薬剤師が取り組む周術期”を題材としたシンポジウムにて、「周術期におけるシームレスな薬学的管理の実践」をテーマに当院での薬剤師の取り組みについて講演を行って参りました。

周術期に期待される薬剤師の役割としては、服用中薬剤の確認、抗血栓薬や女性ホルモン剤、糖尿病治療薬に代表される術前休止推奨薬剤の管理、アレルギー歴および副作用歴の確認、術後の疼痛管理等の周術期医療体制の提供とリスクマネジメントへの貢献などが挙げられます。

2022 年度の診療報酬改定で、「周術期薬剤管理加算 (75 点)」「術後疼痛管理チーム加算 (100 点)」が新設されたことにより、周術期における薬剤師の関わりはますます重要視されるようになりましたが、マンパワー不足や研修に係る高額な費用がネックとなり未だ導入できていない施設が多くあるのが現状です。

今回のシンポジウムでは、当院を含め 4 つの医療機関から各施設の実情に応じた取り組みが報告され、いずれの施設もタスクシフト、医療安全の観点からニーズの高い業務から優先的に取り組むことで、導入の第一歩を踏み出していることが分かりました。ただ、どの施設においても“対物業務の肩代わり”ではない、本来、薬剤師が担うべき手術室での役割というものを模索されていたように感じました。

この“薬剤師が担うべき役割”については、もちろん各施設でもまちまちかと思いますが、「対物業務を薬剤師にさせるなんて勿体ない！」そう言ってもらえるような取り組みをしたいという方向性については共通していたように思います。(スタートは業務の効率化というところでも良いと思います。

ただ単なる肩代わりで終わってしまわないように…。ということがポイントでしょうか。)

“周術期”が薬剤師にとって新たな分野として確立しつつある中、第一線で活躍されている先生方との討論は、自身の理解を深めるとともに今後の業務展開に対する新たな知見を得られる良い機会となりました。今後は、地域での周術期管理も視野にさらに業務を発展させ、周術期医療を担う薬剤師の人材育成・確保にも努めていきたいと考えています。



「第 77 回国立病院総合医学会」参加報告

奈良医療センター 三嶋 美穂

本学会の今回のテーマは「未来へ向かって～日本の医療を支える国立病院機構～」で、令和 5 年 10 月 20 日から 21 日の 2 日間にわたり広島で開催されました。この度、一般演題のポスター発表の部に参加し、演題「てんかん薬剤師外来の開設」について発表させていただきましたのでご報告いたします。

奈良医療センターは、2021 年 4 月奈良県のてんかん診療拠点機関に指定されました。てんかんは、アドヒアランス向上を必要とする慢性疾患の代表例とされています。アドヒアランスを維持するためには、患者や家族、彼らに関わる人たちが疾患を正しく理解し、治療薬剤への不安を取り除くことや抗てんかん発作薬(ASM)の服薬の重要性を理解する必要があります。当薬剤部は、てんかん診療に貢献し、医師の業務負担を軽減(タスクシフト)する一環として、2023 年 3 月にてんかん薬剤師外来を開設しました。そこで、その運用状況や代表的な症例および今後の課題について発表しました。

学会発表の準備過程では、私自身が日頃取り組んでいる業務を振り返る良い機会となりました。学会発表は 4 回目の経験でしたが、過去 2 回は新型コロナウイルス感染拡大のためオンライン形式での参加でした。数年ぶりの現地開催の学会でしたので、画面上ではなく対面で発表する緊張感もありましたが、各施設で取り組んでいる業務について直接意見交換ができ、とても良い刺激を受けました。

今後、多職種からいただいた貴重なご意見やアドバイスを活かしながら、てんかん薬剤師外来の運用と更なる改善に繋げていきたいと思っております。

最後になりましたが、学会発表をするにあたり、ご指導ご協力いただいた先生方に、深く御礼申し上げます。

第77回国立病院総合医学会

ホーム	
会長挨拶	
開催概要	
参加登録	
ランチョンセミナー事前登録	
抄録検索WEBアプリ	
プログラム	
参加者へのご案内	
宿泊のご案内	
演者・座長へのご案内	
演題募集 (一般演題 / 若手医師フォーラム)	

薬剤師の認定資格について考えてみる

国立循環器病研究センター 坂倉 広大

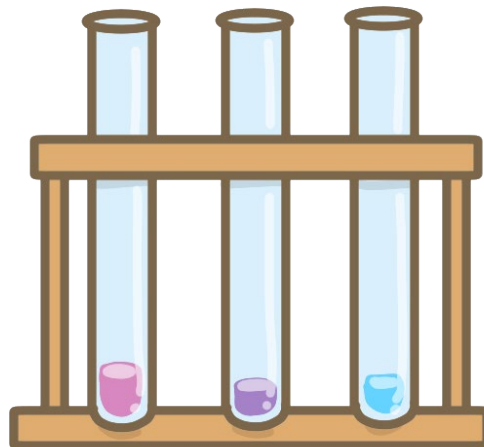
このような機会をいただきありがとうございます。下記、私見も入っていますので、参考までに留めて頂くよう何卒宜しくお願いいたします。早速ですが、2つのテーマで考えていきます。1つ目は、“全てを取得することは可能か”、2つ目は、“資格を取得するメリットは”とさせていただきます。それではよろしくお願い致します。

まず、資格ですが全て取得することは考えない方が良さそうです。どれくらい認定資格があるかウェブ検索をしてみると認定・専門資格は40資格以上ありました。その他として治験コーディネーターなどの資格は30資格以上ありました。毎年1つ資格を取得しても70年はかかりそうです。目指すという強者の先生は長生きすることも同時に考えた方が良さそうです。仮に取得できたとしても、資格を生かすということまでは考えない方がいいかもしれません。おそらくフルコンプリートという世界的な記録を誇らしく思って活動された方が楽しく生きられるような気がします。私ごとですが、薬剤師資格とは少しずれますが、機会に恵まれたこともあり有機溶剤作業主任者の資格を取得致しました。そこまではよかったです。後々困ることになります。知識の維持を考えていませんでした。結果、今現在も非常に不安な毎日を過ごすことになっております。2016年の見解ではありますが、専門・認定薬剤師制度の現状と今後の展望(ファルマシア Vol.52, No.4, 2016)には、資格の質の保障についての懸念が記載されています。私としても質の維持ができなくなったものは、少し意味合いは違いますが、高齢者の先輩方の勇敢な判断である運転免許の返納を参考にしたいと今は考えております。

2つ目として、資格を取得するメリットですが、アンケート調査をベースにして考えてみます。m3.comが2020年に研修認定薬剤師2000人に対してアンケート調査を実施しています。研修認定薬剤師資格ですので、他の資格とどこまで同じように考えてよいか明確に言えませんが、動向として参考になると考えます。勝手に結果を抜粋していくと、薬剤師としてのスキルアップのために取得した49%、取得することで知識がついた57%、職場での評価が上がった26%、費用自己負担は、56%とのこと。資格を取得することへのデメリットは私が確認出来る範囲では金銭以外にはわかりませんでしたが、取得者の過半数近くは、自分を磨くためにポジティブな意見のようです。他者からの評価は控えめで3割程度でした。客観的に取得のメリットをまとめますと、評価を期待するより自身の知識のためになるという効果の方が大きいように読み取れました。もし、私もアンケートに参加していましたら、“取得することで知識がついた”に1票投じます。一例を挙げますと、医療薬学専門薬剤師(私が取得した時は、認定薬剤師という名称)の取得は様々な分野を勉強する機会を作ってくれました。食わず嫌いかもしれない分野も強制的に食べさせられるので、新たな発見にも巡り合えました。薬剤師の基本業務である調剤、病棟、医薬品情報室といったところで活用できているものと思っております。

最後に、国立病院機構 近畿グループは、資格に関して、非常に前向きで応援をしてくれ、恵

まれていると思います(このような題名の執筆をさせていただきさるくらいですので)。世の中には様々な医療機関で頑張っている同胞たちが今更言うまでもなくいます。医療機関を維持するために休みが取れないなど、色々な理由により学会に参加することも難しい方もおられます。そのような方々の中には、資格を持っていなくてもこの人にはかなわないなという人がたくさんいます。我々のように資格を取得できる環境にいるのであれば、それはチャンスですので、検討してみても無駄ではないように思えます。改めて恵まれた環境であることを思い、このように執筆させていただく機会をいただけたことに幸せを感じました。



趣味のページ

舞鶴医療センター 多田 純平

大阪医療センター 祝先生よりバトンを受け継ぎました、舞鶴医療センター3年目の多田純平が趣味のページを書かせていただきます。祝先生とはニプロの研修でお会いし、同じ班として活動させて頂きました。またお会いできた際は、ぜひ美味しいご飯をご一緒させてください。

学生の時から趣味を聞かれてもなかなか思い浮かばなかった私ですが、社会人になってから趣味と呼べるものが少しずつできてきました。今回は最近自分の中でブームとなっているバドミントンと各地のご当地グルメの食事について紹介させていただきます。

大学生以降、運動する機会が減っていたのですが今年度より先輩や後輩達と一緒に市の体育館を借りてバドミントンを楽しんでいます。私は小学校1年生から高校3年生までずっと剣道一筋だったため、バドミントンは初心者となります。そのため、道具を揃えるところから始めたわけですが、「やるからには全力で」がモットーの私は最初から一般用ではなく、競技用ラケットの購入を決意しました。(決して道具で優位に立って対戦時に勝とうとしたわけではありませんよ?)しかし、球技を全くやってこなかった私にはラケットの重心の違いやグリップの違いなどの話は未知の世界で全くわからず、後輩からアドバイスをもらうことでなんとか購入することができました。



そんなこんなで活動が始まったわけですが、初心者であったり運動を全くしていなかったりで、先輩や後輩にコテンパンにやられてしまっています。当面はラリーを続けることを目標に、下手くそながら楽しんでいきたいと思えます。



次はご当地グルメの食事ですが、10月に広島で開催された国立総合医学会と11月に仙台で開催された医療薬の学会に参加させて頂いた際に、その地のグルメを堪能してきました。私は食べることが大好きなので、コロナ禍で自粛していた分、今後は各地のご当地グルメを食べて回りたいです。

つたない文章でしたがご拝読頂きありがとうございます。

次回の趣味のページは同期である和歌山病院の仙石先生にお願いしております。どうぞよろしく願いいたします。

編集後記

♪日毎に寒気加わる時節となりました。今年は暖冬とのことですが、お風邪など召されませんよう気をつけてお過ごしください。

♪先日、仙台で医療薬学会年会が開催され参加しました。現地参加は人との繋がりを感じられたことやご当地の名物を楽しむことができ充実したものとなりました。

♪来年は診療報酬改定や薬学部の新コア・カリキュラムが適用されます。時代に求められる薬剤師となれるよう今後も精進していきたいと思えます。

♪ご多忙の中ご寄稿いただきました先生方、ありがとうございました。今号も充実した内容となっています。

(N.T.)

近畿国立病院薬剤師会誌

第七十六号 令和五年十一月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

神戸市須磨区西落合 3-1-1

(独立行政法人国立病院機構神戸医療センター薬剤部内)

発行人 会長 本田 富得(神戸医療)

編集 広報担当理事 別府 博仁(奈良医療)

広報委員 壺阪 直子(兵庫中央)

細田 敦規(循環器病研究)

野田 拓誠(舞鶴医療)

清水 宏太郎(和歌山)